

今日与えられた8章は“8:2 キリスト・イエスによって命をもたらす霊の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです。”と記されていることから、簡単に言うと、イエス・キリストの聖霊を受けることによって、私たちは罪と死から解放されるのです。

罪から解放されることは、先ほどお読みした、

8:34 だれがわたしたちを罪に定めることができますよう。死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたちのために執り成してくださるのです。

と記されている様に、復活された主イエス・キリストが私たちの罪を執り成してくださって居るので、罪を規定しているイスラエルの律法に縛られることなくキリストの律法である、キリストの愛に従って歩むことが出来るのです。

8章の9節から11節に掛けて、神の霊、キリストが内在する人の信仰については。肉の支配から、復活されたイエスによって生かされている、キリスト者の信仰が語られています。

そして、23～24節では、パウロは

“8:23 被造物だけでなく、“霊”の初穂をいただいているわたしたちも、神の子とされること、つまり、体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。 8:24 わたしたちは、このようなお父さんである、主イエスの父なる神の希望によって救われているのです。見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見ているものをだれがなお望むでしょうか。”

と23節で示されている霊の初穂として、キリストを内在している、キリスト者は、父なる神の希望によって救われているのです。

10節で示した

“8:10 キリストがあなたがたの内におられるならば、体は罪によって死んでいても、“霊”は義によって命となっています。”すでに私たちの霊は贖われ救われていますが、肉の体も贖われることを望んでいるのです。

八木重吉の娘への愛情あふれる詩を引用して

「もも子よ おまえがぐずって仕方がない時 わたしはおまえに げんこつをくれる だが桃子 お父さんの命が要るときが在ったら い

つでもおまえにあげる」
福音書が示すアガペーの愛です。

ヨハ 15:13 友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。
神が愛するように娘を愛している、八木重吉なのです。

私の愛は親子の愛でしかないのです。行き当たりばったりの、愛なのです。イエスの愛はペトロの愛の違いを、ヨハネによる福音書得示されています。

“21:16 二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。”

と、イエスの愛は ἀγαπᾶς アガペー で、ペトロの愛は φιλω フィロ というギリシャ語で、主イエスの愛は、普遍的な愛、変わることの無い愛で、ペトロの親子や友人への愛で、その愛は、場合によっては、憎しみや嫌悪に代わってしまう、人間的な愛情に近い愛です。

3度目の問いでは、ペトロと同じ愛（フィロ・フィレオ）を使っています。私たち人間が普遍的な愛を抱くことの難しさから、最後の問いはペトロの人間的な愛で問いかけ、主イエスがペトロにキリストに従う羊たちを任せたのです。

パウロの語る愛は、

“ロマ 5:5 希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。”¹

その愛は、

ロマ書 “5:8 しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。”

と、キリストの十字架の愛によって示されているのです。

その愛は、8：31～39において、

ロマ「8:31 では、これらのことについて何と言ったらよいだろうか。もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。」から始まり、8:39 ・・略・・わたしたちの主キリス

¹ ギリシャ語新約聖書語句事典Ⅰ 教文館 1995年5月10日発行

ト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」

という確信で終わっています。

なぜかという、神の愛で生きている私たちは、

二コリ 5:15 その一人の方はすべての人のために死んでくださった。

その目的は、生きている人たちが、もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方のために生きることなのです。²

と、記しているのです。

今日与えられた、中心聖句であります。

“ロマ 8:35 だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう。”

マ 8:39 高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

というみ言葉は、キリストの愛、そして神の愛は、私たちの外にあるのではなく、教会の中だけでなく、自分の心、そして、魂の中にあり、神の愛から引き離されるときは、肉の死する時で、私たちは“霊”によって生きることになります。初代教会のキリスト者が殉教に至ることはそのようなことだったことを理解することができます。

3 4 節のだれがわたしたちを罪に定める

このパウロの論理から 8・1 3 節を思い起こします。

マ 8:13 肉に従って生きるなら、あなたがたは死にます。しかし、霊によって体の仕業を絶つならば、あなたがたは生きます。

この「だれ」は、1 3 節より、罪に死んだ私たちの肉と考えられます。私たちの肉に従う者は永遠の命を生きることが出来ません。

★35 節～3 7 節で、だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離す

8:11 もし、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かしてくださるでしょう。

² ギリシャ語新約聖書語句事典 I 教文館 1995年5月10日発行

と記されている様に、私たちをキリストの愛から引き離すことは、私たちの内に宿っている霊を引き離すことはできないのです。

★そして、38 節～39 節で、あらゆるものが、神の愛からも、わたしたちを引き離せない

イエス・キリストを救い主と信じて、洗礼を受けたことで、主から霊を与えられ、神の霊が私たちの体の中、心と魂の中に住まわれたのです。自分の体の外にいる者は、引き離すことが出来ますが、身体、心の中、魂の中に在る神の愛を私達から、引き離すことはできないのです。

主イエス・キリストによる神の愛については、フィリピ書を想起しました。

フィリピ 2:6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、 2:7 かえって 自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、 2:8 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。